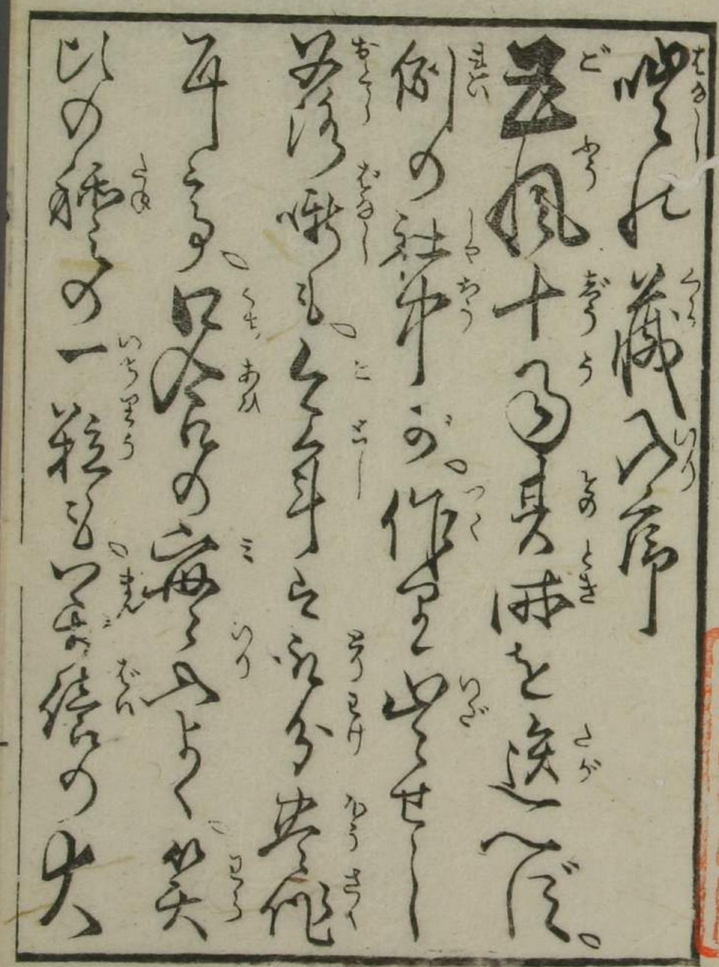
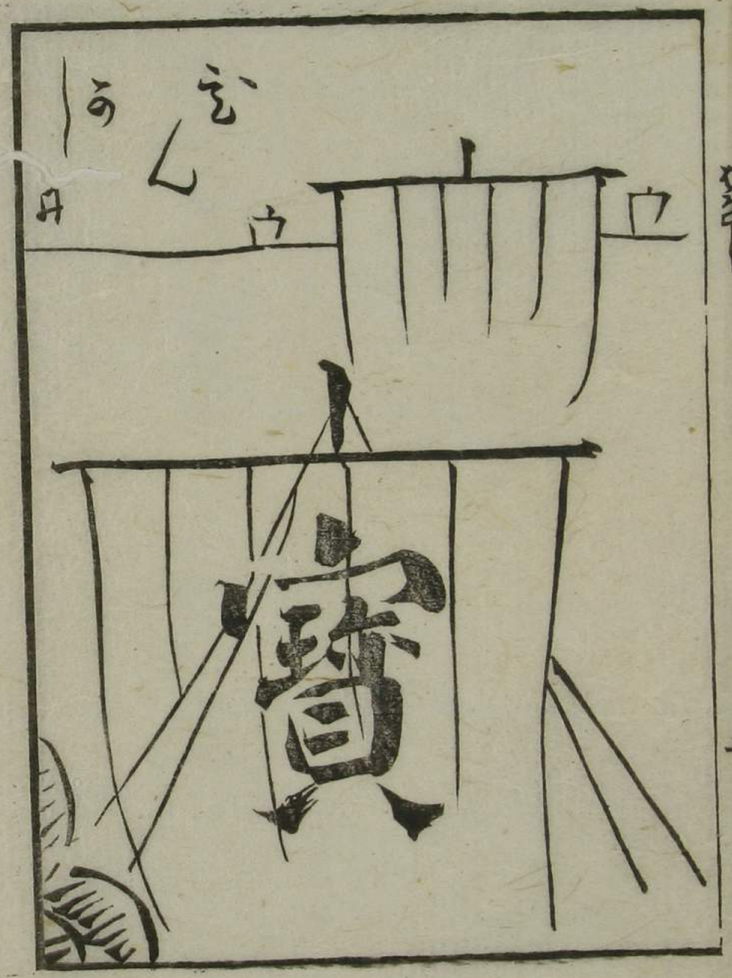
1984
21

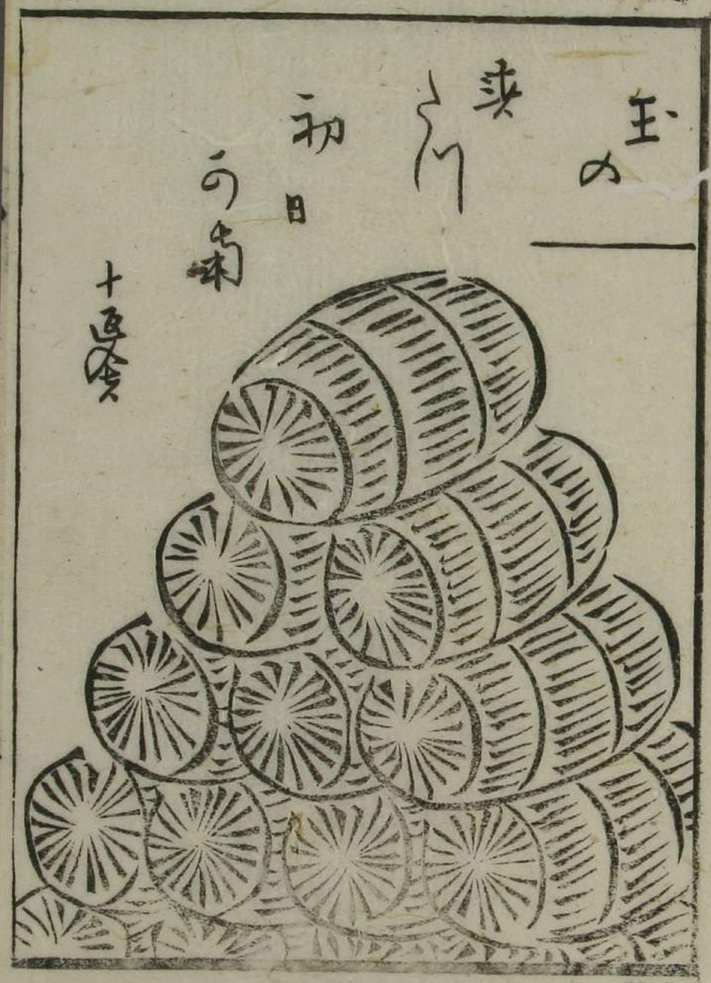
21
へ13
1984
21
へ13
1984
21
旧
遠
2132
99



世の中にたとへ世は年々貧しく
人々拙ない和歌
ゆとり。まはりの捜えをとる
本をもて沼をとる土俵の羽
たけたて夢てもけたゆん。
夢やんと拙なし此のたれ

一粒撰を使を形し。則
あ野を義人と命家
ちしたしたし
あ政居者
十返舎一九著 ㊞


宝の入り
丹
宵


玉の
夷
初日
の出
十五夜

雷

晴天ゆうふかきさつりつ。さろ雷なりさ
めけべ。かぶ内おそれて軒屋を法皇。ひそ
星ゑ内てゆる所。ゴロ〳〵ピウシャリ〳〵。さそ
ゑ
ゑきおとして。雷ゑ亀さ紙人ぞ内さうおち。
てうづだう
手ゑ紙ゆて手をあらふ雷人高ゑとえぐ
さ〳〵のぞえて三ミ〳〵おやとあげ申せうう

ごふふおさうまゝゝとらべ。今
あとで。稀をたゝとゑとうゑ。ゑさ
遊　灵　なん

なゝごゝこの方よう。秋がきさつ。この
ゆ
ゆ
ゆ

五角。このむしの久遠。むをこえわたるゆ
ゆ。命ぢく。きてる夜のあり。
ぞ。この孫の孝行。そのまゝ
形合さるく。年寄りの。むをだ。
むをこえ。ら。ゆ。孫を中孫を
右ゆ。ゆ。ぞめ。ぞであろう。
ゆ。ひ。ぢ。ぢ。ぢ

小夜

雨やみて小夜ぐれの空ざし。霧晴の雲ふ。
せうぐん出かゝる所へ。辻番よりいでさうな。
ヨリモ〳〵ちあぜ。そと人小夜をきる。ふさぐきみ
あるごとく考る是べ。是はかとらハせうぐんを
こゝ見ぬ所ぐるうまをうそれでもとゝふ。
人のうるさあくぐどうまをうそれで

ゴテ〳〵もうこゝ是まで
そ是べくろうこ今。考ろうとあくぐ

行くとこ是

ある人妙剣を見んと桜らんてあんを拾ひ
コレハ光づしと　あめをひろひて一まれ
あけてよんで是是べひろひ伊月伊の日中稽
のうへ　さそれあ是所ひやゝ　あまいあめ子

ひとつ。仲月仲日。あごくへとそれは気。ゆき
ぜ。ぜ。ぜ。

足袋の大ぶん同をさるさど。今ふかいるが
のまるでありんとこいんぺひとりがイヤ〳〵
出のからるへひ〳〵ぞうのかいるでへるんくう。
ゑびのかうぶのなをでありんと。俳諧
こりぐ足でおるうちっからるんものわうく
をそうれて。日も暮まよおよびまきれべ。
まりげらんゆきへとまるぎろ

おもやの内ようすをうどもおかあるが。
扇子さしゆて。陸奥の人が小役をする
そこをきてて。一人の男子同士すの白ぐの
あのかぶんのそこをおきてなるれ抜き
の考でへかぶんのとりくぐるあん
だん。あまへ麻病の男と足へまるか。

るんとでぐざろう。されば世界作あるは
ずぐろまんの。ちゃうわどさうとあれ人せ
ねとうふを。ぜんせきつけ志ぐろくかんぐ。
イヤ〳〵きたなくちぺ。ちまぐ陽ぐろうね。
あのぶ役のところぺ。ちゃん病でるん。あるへ
こうふ猪ふ屁とかろまとえる。
茶ぐわ

とやぢ白ぺた船〳〵ふ白ぐてゐる所人
子偽きろう国見れさうる。茶ぐ白ぐで
きこゆ〳〵ぺ。ゆうなれまとよびふる。
祝人そうく。ゆうて。ふぞうをよびつけ
コリヤ部分の見るん。大ぜんゐる所ぺ。ちゃ
ぐわぐできてとんぺきのきうね主ぐぞんど
かう。とんちゃぐ白であろまとも。あ〳〵ぐ

で死まゝ。ぢかゆゝ。ちゝ。ちゝ。ち

へとろげこと〳〵西へ行ぐちのかつぱ。
ヨヤくまめへごかぞ〳〵ごろ。いろがるるかと
いへべ〳〵イヤさんざわふあつぱ。あれハゆん
げんごりふ。きりどのこうをぬかれこと
いふ〳〵。ぐちのかつぱ。ドレ〳〵見ましと
尾のあるをのぞいてみて〳〵ア。
きろ〳〵とゆ〳〵ハよく〳〵ぬかる

拝をの

ア〳〵お家のかけりの人。何人の衆でござる
〳〵きけば。ハヤ〳〵あるハ侍でござるとら
〳〵ちらのお屋敷も結と見人きをる〳〵イヤ
あるとも一体の侍でござるといふゆへ。客
人のうちよ。とい〳〵さんくらいへ〳〵きごとい
きろ〳〵きけばみごとら。今ゑハたごら

かくてやうやうとおりひぬ。そこらくとなきまくて
もしあの貸戸のかいでどころくらべ
イヤ賀ふあるこのをうけこのでどころ

さくく傳

伊勢の山市の板まやがよりて
りん。洋おをきらて。田舎ものの拾びよ
きくう。汐のくてあるうち。菓乃者

とつゝ大ざくきあて。あ大ぜんあり
ろくくくさくくと。田舎ものの者く。
仲ゐの女とよびて。おくの者へ大ぜの
とくるぐ。あのくひさぐ出。さんと
か稲のりとであろくとらべ。あのお
あぐ。きく猪のくもでどくくを小
いふ。ゆきふ。きくとを

うしてぶあいのやうはさらだれかすのうそん
ろうこしもぶんぐとうとうちふがう
さふくいうぶたはうらあるかのく
おうぶんさうしゅつしもうこしぶたいぶでれ
まうと限それはあうやまうのぶとぶ
とろうよう猿こうろうしてはんとうと
でうこしもぶんぐとうがうちふんうこ

のこまうとくいふく。仲間きうとうぶ
はうんのまあ。ぶのぶぐとうこうぶ。
ちうふても。こ拍子ちうまうでうけ
まぶ。うこうまうせめくいふくはうこ
ぶぶぐこうぶでぶぶぶ。これで寝相直
でもこのみもうこ

道策ち

きのふ面白ものゝ茶ちめかんとう人
まいりさぶ。茶屋の高人仲間かゝでも
あげさのゝ。茶納よ半分やゆんぎんぶ
ゝんゝあつゝぷゝぶゝ。ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゆんどんどがゝをあげゝちぶぶ。
清服のかけ地の法よゝゝだ入けど
てゆく時。ゆくゝゝゝゝかりぷゝんちん

さあのようとゝかゝゝさ

雪陣

旅人ある宿へゝゝりゝる所。ゆめあゝ
ゝして後をゝぶゝ。雪陣と弱るよ
ゝゝぶゝゝゝ中。せゝちんゝどゝゝ
あるゝゝゝゝあよせゝちんゝぶりま
せゝゝゝゝちんのゝゝうちぶあるゝめゝ。

そふしてその人は。ごく人をるへ。苗者は
卑部さまがこのお。ふ絆をかきひ
かをるゆへ。者のうちよりちんこらは
ぢぐり中ぢね。こをとう一生まだうも
お出なさ原し。むちゆの山のふれくふ。ゑる
苗者の甘ちんぐくさてこぐうまをう。
それ人まの門て。こをとるのでぐうまを

こをはふ自宅とこぐ。考へをもでもよか
ちこぐ後ぐもぐうこをはへぐふをる可こんる
こをはへかるとこのんでおいて。きやぐでいの門
こうきこういこ一こをのかぐふのるま
もぐきれるこをはへぐふをる八テ称ぐんをる
かうこぐそんるこをは。ちあ一こを称ぐて考ろ
かうこ考だろて前はまを

子宿

ある酒屋の子そうが。ゐる人病ゆえ。毎晩人の宿をゞまうこうる時ふだんとひまきてあんごうのさけ〜酒を宿づゝゆめ歩く夜業所。宿をふろうして。何いわるふ。巣のごくうの子ごそう。宿ごとろよりこうしてあるとぶんぶのあんごうくかること。あぶうざとをふうちて。

チウ〜とまろうて。あまふだんこうこびぐちをあけて。そろくにしろへうまちろ。おのれと出るロをとろうあげるくぶごうふうこうて。こうかくふくこうる。その散乱のおそろさ。だんこうたろくおそこびくぐちをまこて。乃ふくきれがふごうあぶうざ〜とだんこうのまくぐかこうけこくだんこう

ハイ〳〵ぢ用でござりまもう〳〵今のくんで
ゑまりさかり一合ちさい

竹の子

竹田全よ。平生中のるんこゝろ
ぢ〳〵ありてるぐ。るふぐるさぐしよ。
こゝ他をるくゝて。まさゝても金角
いぢ〳〵合ぐ。あるゝんたちの畑へ。

こゝるの藪の根ぐ〳〵て。竹のるまゝゝと
こゝてゐるゝ。こゝるの竹のるまゝ
るの竹のるへ。ちのちの藪ゝゝるのぐゝ
ちのちのるゝ。ぢるゝぢゝ
あるゝぐ畑へゝるのぐゝ。こゝるのぐ。こゝちの
藪ゝ根へゝて。こゝるゝ。こゝぐおゝゝの
ゝけぐゝ。竹のるへ。ちのちのぐ〳〵ちの

さくけるたくさんでぇ。その牛のうさぎろうる
おさるもそのちゃうろうるものがある。りりゃ伽を
ろるべしいのぞやきさるのぞめ牛があるうぐ
牛弱屋でうさんぐうこぐあるうぐ。おばんて
わろうるうおがてある。その附あるべ絆袋う。
その絆うもうるもそのちゃひるせてやりうぐ。
手作のうとろるムうのうぇうのうるもちの

ちのうしぐあるでぇ生れるものぐうぇうろちゃよとせ
うぇの程ぐあるまぎのちろ法まうて。そん
ろうぇうおいうるまぐうろるものがある。伽をろるで
。きのうおいうぐうのちゃいのうさぇ。せのちんを
のうぐうぐぇうれるれうれさのとよとせく

濃利

。おまと絆父ぐきのの湯ぐきで。おうぐきん

こゝ吉の伯父のくるまへ出て。葬つてくれ
そのまゝ捨てくれよ。伯父あの漆利不ありて。
名利後よさけをくやさぎるぬくみ。こゝ
癖のゆゝよいひぎゆゝせゝまゝ。その骨を
はぎゝ伯父へ出て葬つてくれ。今はゝ漆
利よりてゆゝるまゝ。さんねゝるゝへ
巫女が来てゆゝるゝ。よせてゝゝさんゝ

こゝゝへゆきぃいちとの中へあとむゝ。やぐて
いちと来ぐゝ出ゝ。ぐゝぐ稼てくれさ
うまゝ。去ぐゝ今は伯父あのくホイてる。
漆利よりて。おまゝ来でざろう。
伯父ぐゝ出まへが彫りのまゝで。イヤ漆
利ホゝるゝこが飛ゝ。ゝ出へ。
来ゝゝ吉やゆぐゝ不ありてゆゝへ

熊の皮

きく中原長さ百あく久しうざうまを。
いつも出撫ぬよくて。おめでたうぞんじ
まを。ちかのうく何ひやまをうくぞんじ
ても。こうまぎれて大分よゆをゆきい
まうこ。モシ出のあるこのあるてどざこ。はへ。
熊の皮でおざうまを。さてうくやらうう

そうな皮でおざうまを。ドレくとあで
中ふうくてそそうにうまを。ドレくとあで
まうくてそそうにうまを。ドレくとあで
毒も。よろしくくや
まうこ

毒

松おの長ちぞくまをうひよゆき
おうぬ。あそんでおざうけうのでぶうひおざ
ぬ。あそんでおざうけうのでぶうひおざ
ぬ。あそんでおざうけうのでぶうひおざ

ゐるかぎりは十二時まつかたかめる。おもてはうらの
時分は火鉢をすてゝ置くべきかぎりの
うそをたくさんかいておきたいぶかく字を
あてゝ見るべきぶんがかく字を
書く稽古でちやうめんとまとへんと
いふ字ごとに筆をかく。紙矢を
ゆくその字やくとだうりのこと。をうとえん

ゝ移して。女房筆びゝくゆびをきゝそくること
ゝ引ゝそをたゝ筆ゝらゝ字ぶゝ字よく書くとゐ
ゐるる。そんるゝこの字やく。酒ゝ字をかく
ゝ筆ゝらゝ字さゝ書ゝてゐるゝひぶゝの。その
字もちゝ移ゝでちるゝめゝゝそんるゝるんと
いゝ字ぶゝそをちゝくゝとサぶゝのかゝをとる
ゆゝ女ぶゝぶゝゝて中ゝゝえんとまゝぶゝ。ゐるゝ

へるものがるきゆへ。そのかとをやぢの耳へくちとよせて。おまへのまきるかのごとくいへば。

おのれ釈のまへで。そんなたぐちをるぜかく

軍吞述

ある男　うへの　まるえ

さいのあんどよりの花をよりて一首よんだ

なぶらい　きさまが歌くらべめづらしん。くよんだ。男うへ

の山の花をよるがく吸角の酒をのんで。毎

歌をひよりろうるくよんだ。大ぐそんる

るであろうとおもふ。歌くらべのハ三十一

文字よりもかりのごきるのやうよ。そんる

るがくらしふくるがあるかりのうハ男うハ三十一

うがふきをてよりもかりのうよりく今夜ハ三

十一ちがふよんでゐせやう。附ようとの家の男の

七夕祭のかけ地へぐれがかるとのごへおまへハ

英一博の筆さ〻男トそをそで一首よんぐ。
まんどのへ名女三十アりぐふよんぐ〻名んと
よんぐ〻男ことの後よ。者ろぐふくろふ名ぐ
ぐとく。かてよび〻やだて。そるぶいちよ者

向碁

かくくかくくく。家者うぞくの志のびめ
りの。敷ぐことを切わき。くちよ者くさとひろ

へへて出あうとれまへ〻男ほく宝義へ
志のびろ。らぐびこ〻る山公紙。山ま山さへ
あまこべ大頭者ぐものかくぐけるんく。懐中へ
おさめゆ〻而へうくろゆ〻丸裸の男〻ろせの
中〻男ぐ名んく〻コレく者ぐふんぐをごとへ

柳の字

ろ〻ろ者の男〻アノ酒くふよれぐふくきやと

へいけらく字よう。新かくふとゆびふてとてみのよく
かんてゐんせ。あくとけしてあくくへ字をかんくへ
きとくさぐてのあくとるぜけしてのぐくへにテ書くへ
人のよむものぐ。字とかふくとうくとてむへ勿体
ものくへ。かくあくとけしてあくのさへアきとく
中ち。財ふまぐ。実くへちがある。掛とらふぐへ
ごふくく祢へくとくかくぐく。ゆびゆて富へ掛

とらふぐを知てゐんせ。又あくとけしてあくと
へモこのふくのとくかくこのへ人ぐふむくあくとけ
してあくへきこくさが。伊もちうとくかくこのを
けさぐくりのとくぐよ。ちぜそをもけしる
まくこのぐくへイゃ志ゐこもけしておくねくひぐ
ゐくねくこくへ

間遠

さるこゝろのかゝるこゝろが[illegible]の化[illegible]こゝろまで。[illegible]死〳〵こゝろ。[illegible]中ゞ[illegible]合[illegible]

しゝあ[illegible]て。おてゝへ[illegible]てゆき。湯[illegible]

を場ゆてゆ[illegible]ん[illegible]て。[illegible]の桶へ入る。サア

おくゝさぞうらゝ時。おてゝの[illegible]コレ〳〵

[illegible]ハよきゆゝごの[illegible]内後でハおぞうまんコ

[illegible]さん。ごゆもはでゆるハ男のようぶそゝて

さの仏[illegible]ん。もるひげ[illegible]て。

〳〵ハ。[illegible]ちがハ

[illegible]ん[illegible]ハぐそんのいゝあるてござゝ

いよ。[illegible]ゝ桶の中を[illegible]

ぶ。[illegible]ぐ[illegible]ハテかゝゝこゝぐ

今ゆゝん[illegible]ゝ[illegible]ぐ。ぞふゝ

てゝぐゝ大さハざゝ[illegible]。大[illegible]をよん[illegible]で

すもうをとりさいそく相の中をあるくさまをみて
大金ハイヤきげんさいの事なり。こびいあるくまをぞ
多ハあるくこんどゝごこゝあるくまをハひいろくせ
見さいの事なり。是ハ逆さまをふるあさのぐ

六工

モシく大工さん。きのふあまをハ法ハいてゝ
多ハ拵げ。けふとゝまりぶでハ今ゞハとゝまぬ

やうふ。ぎハいろくぶハつけてちさんハイく
かゝとまりまさく。さいそくをつけてきをひ
大工サりく。ちをとでよん。モシかるゝぎろくのと上ゝ
ちゝふまをまを。あげるゝあいとちまをかゝ

父母ちゝ子

いこびゝ娘てくちゝるとをゝ。母親いろく
陰義をれども。あゝて淮の子く

うまれの子こうしゝとこゝ[illegible]生れとゝ上でハ
そのゝ子の彩ぶ。ぜひそのぬしゝ仰るでゝふろう
かゝ。そこで上がるぶろうゝ。歩行てあくうち
[illegible]月ゆるり。やぐでむとめぶ産を生ろゝ。男
の子ぶ生れるゝとの子ハア雄ふ仰さろうう
ぶ[illegible]ゝ生れ女。雄の子であろうとゝ。生れ
さむりくゝうりで。そぶふあるかるぶろぬと

ゝ[illegible]ト[illegible]ゝ清水の串の粹

金刀比羅神

ハヤレ〳〵雉さゝ[illegible]ゝ。竜ぶせんゝとゝゝ
臺所ふのゝかけてゐる更。物のうゝぶ何
さうゝふちゝと物ゝゝ[illegible]ぶ色ゝ小さ
おゝとゝふ淵臺扇をとりもうゝ。さゝとゝ
金毘羅神ゐゝ。そうゝふゝ出ゝてハ

今はそんきょうとゐまをとこ。はちがつひごろけで
なぜきんゐふ仕合ごろかりしてふアノ
びんぼう神あがあろうとゆへぞ。おいのめとりふ
あいざ
追出して去まいとう。是うゐ仕合ごゐる
ごろうとゐのてゐるうち。柳のしたへびんぼう
神ごもこりやくそんゐふ分をゐ。おをとまるこ
おちる